

陳情第140号	受理年月日	令和元年8月8日
付託委員会	保健福祉委員会	
件名	公共の場所におけるグリホサートを主成分とする除草剤の使用禁止について	
要旨	<p>グリホサートを主成分とする除草剤は、アメリカのモンサント社が開発したラウンドアップという商品名で、現在多くのホームセンターで販売されているが、グリホサートは猛毒を含んでおり、2015年に世界保健機関の下部組織の国際がん研究機関が、恐らく発がん性があると発表し、2017年にはアメリカ政府の研究で急性骨髄性白血病との関連が発表された。同年にはカリフォルニア州がラウンドアップを発がん性物質のリストに載せ、ことし2月にはワシントン大学の研究チームが、グリホサートにさらされると発がんリスクが41%増大するとの研究結果を発表した。</p> <p>グリホサートは発がん性はもちろん、植物を枯れ死させるが、同様に土壌細菌や腸内細菌も損なう。腸内環境を破壊することでアレルギーなど自己免疫疾患などの原因になったり、神経毒として自閉症や認知症を誘発する可能性も指摘されている。また、精子の数の激減、胎児の発育に影響を与えるだけでなく、世代を超えて影響する危険性を指摘する研究結果も発表されている。</p> <p>アメリカでは、長年にわたるラウンドアップの使用によるがん発生が広く問題になり、ラウンドアップの使用に対して1万3,000件以上もの訴訟が起こされており、昨年8月とことし3月、5月にはモンサント社を訴えていた原告が勝訴した。ほかにもデンマーク、カナダ、スウェーデン、ノルウェー、スリランカでは使用の禁止や規制がなされ、ドイツ、イタリア、オーストラリアなどの33か国は2～3年後の使用禁止を表明している。</p> <p>日本でも、福岡県宇美町がラウンドアップの使用禁止を決定し、滋賀県彦根市では、市の管理する公園にラウンドアップを散布しようとしたところ、県内外から中止を求める抗議の電話が殺到し、その散布を中止</p>	

した。

北九州市は子育て日本一のまちではなかったのか。北九州市の公園や、学校、幼稚園、保育園等のグラウンドにグリホサートを主成分とする除草剤を使用してはいけないという規制がないのは、とても安心して子育てできるまちとは言えないと思う。子供たちは常に危険にさらされている。現在、このグリホサートを主成分とする除草剤であるラウンドアップはホームセンターで手軽に買える。このままでは危険性を知ることができず、市民、特に影響を受けやすい子供たちが健康被害を受け、被害がどんどん広がってしまうことになる。

ついては、健康被害を起こす危険性が危惧されているグリホサートを主成分とする除草剤について、公共の場所、特に子供たちに影響を及ぼすと予想される市内全ての学校、幼稚園、保育園、公園等での使用を禁止していただきたい。